

ペンテコステを覚えて

東 よ し み

キリスト教の教会暦の中で、最も重要なイースター（復活祭）に続く祝日は昇天日、そしてペンテコステ（聖霊降臨日）です。ペンテコステは、復活したイエスによって聖霊が注がれたという出来事を覚えるものです。この出来事は、イエスの弟子たちが、いかにイエスの復活を経験し、解釈したのかを伝えるものでもあります。その意味で、イースターがコインの表であれば、ペンテコステはその裏であると言うことができます。

この出来事は使徒言行録2章に報告されています。五旬祭のために集まっていた人々は、突然、大きな音を天から聞きます。それは烈しい風のような音で家中に響きわたりました。そして炎のような舌がその場にいた人それぞれの上にとどまるのを見ます。すると、人々は聖霊に満たされ、様々な国の言語を語りだします。この出来事に、エルサレムのユダヤ人たちが集まり、驚きます。

続くペテロの説教が、この出来事を解釈していきます。ペテロによれば、この出来事は終末の時に、神がすべての人に霊を注ぐというヨエル書の預言の成就です。それだけではなく、この出来事はイエスの復活と結びつけて捉えられます。「それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました。あなたがたは、今このことを見聞きしているのです」（使徒2:33）。

ペテロによれば、復活したイエスが、今、賜物としての聖霊を天から注いでくださったのです。弟子たちにとって、復活し、天に上げられたイエスは、遠く天にいる過去の存在ではありません。復活したイエスは、聖霊を注ぐことで、地上の弟子たちを力づける、現在に生きて働く方なのであり、「主」、「メシア」（使徒2:36）なのです。

復活のキリストから、賜物としての聖霊を注がれ、力づけられるというペンテコステの出来事は、イエスの弟子たちに限定される経験ではなく、時と場所を超えてすべての人に開かれています。「この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならばだれにでも、与えられているものなのです」（使徒2:39）。

ペンテコステのこの時期、わたしたち一人一人に聖霊が注がれ、新しい力が与えられますように。

（神学部助教）